

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502314		
法人名	医療法人社団 翔嶺館		
事業所名	グループホーム 健寿館		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条1丁目1番35号		
自己評価作成日	平成23年12月2日	評価結果市町村受理日	平成24年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502314&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム健寿館は、医療法人が運営をしている特色を生かし、医療ニーズの高い方の受け入れを積極的に行っています。系列の「新札幌聖陵ホスピタル」と医療連携をとっており、24時間対応の緊急体制はもちろん、定期的な訪問診療、訪問看護によって包括的に健康管理を行うことで、入居者の方、ご家族に安全・安心を提供しています。また昨今、話題となることの多いスプリンクラーの設置に於いては、共用部分・個室全室に設置されており、万一の火災にも被害を最小限に抑えられるよう整備されております。環境の面では閑静な住宅街の一角という立地条件、施設運営に協力的な地域の特性もアピールポイントのひとつと言えるでしょう。日頃からの地域の方との交流、面識を持ち、町内会などのコミュニティが主催する行事にも積極的に参画することで、「お互いの顔が見える地域に開かれた介護施設」を目標として取り組んでいます。日常生活、または介護における特色は、徹底したパーソンセンタードの方針を挙げることができます。できるだけ入居者の方と関わる時間を設ける為にはどうしたらよいか、、認知症介護と尊厳の維持とのバランスなど、職員一同日々研鑽を積んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 健寿館」は、広々とした明るく清潔感のある建物で、近くに遊歩道や公園などがある、自然環境に恵まれた場所に位置している。管理者は常に向上心を持って職員の育成にも積極的に取り組み、利用者一人ひとりを大切に、安定したサービスが提供できるように職員と共に日々取り組んでいる。前回の目標達成計画でもある、利用者と職員が一緒に同じ食事を摂ることの重要性や外出行事について全職員で話し合いを行って前向きに取り組み、日々のケアに活かしている。日常的に散歩に出かけて地域住民と挨拶を交わしたり、町内会の行事に参加するなど積極的に交流を深める努力をする事で、近隣住民がペットを連れて来訪するなどの成果もあげている。介護計画や日々の記録なども充実し、個別記録も工夫したわかり易い記録方法にするなど、書類の整備にも取り組んでいる。年間を通じて外出行事や事業所内のレクリエーションにも今年度から積極的に取り組んでいる。運営推進会議には、多くの家族が参加している。医療法人の運営という事で、医療面も充実しており、利用者や家族に安心感を与えている。利用者は、職員の温かなケアの下、笑顔で穏やかな日々を過ごしてる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検しうえて、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
		○	4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人を大切に」「支えあう心」「安心して暮らせる社会作り」「地域との交流を深めながら、孤立することなく生き生きと暮らせる」、...以上の理念を実践できるよう努めている。	開設時に「地域との交流を深めながら、孤立することなく生き生きと暮らせる」という地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関と居間に掲示している。新人採用時研修や会議の中で再確認し、日々実践に向けて全職員で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域にある公園の清掃活動などに参加している。入居者と散歩へ出掛けるときには、地域の方と積極的に交流を図ることでよい関係を築き、事業所へ来訪していただくなど成果を出すことができた。	町内会に加入し、盆踊りや運動会に参加している。日々の散歩で挨拶を交わす事で、近隣住民がペットを連れて訪問してくれるなど少しずつ交流が深められている。今後も、日々の触れ合いの中からボランティアなどに繋げていきたい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献への取り組みには至っていないが、相談の体制はあり。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(概ね2カ月に一回)開催し、入居者の生活状況などを報告し、家族の希望や意見を聴取する時間を設けている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員や数名の家族が参加して2か月毎に開催し、活動報告や外部評価結果、避難訓練結果など、報告中心の内容で行っている。開催案内、議事録は毎回家族に送付している。町内会役員など、地域住民代表の定期的な参加は今後の課題となっている。	地域住民代表の定期的な参加を呼び掛けると共に、年間を通じて議題を工夫する事で、参加メンバーの意見交換が活発に行われ、更にサービスに活かされるように期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、入居状況の報告を行っている。密に連携を取るには至っていないが、年2回程度開催される市主催の管理者連絡会議に出席し相談助言を受けている。	管理者は、介護認定更新の手続きや書類提出で市役所を訪問したり、メールで必要な連絡を取っている。生活保護担当職員が来訪した時は、利用者本人の相談なども行っている。管理者連絡会議で研修などの情報を得て、職員の資質向上に役立てるようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルの設置があり、内部研修を実施する他、全職員が閲覧できるようにしている。	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を明記したマニュアルを整備し、管理者は会議や日々のケアの中で事例に基づいてアドバイスをを行っている。玄関の鍵は夜間のみ施錠している。外出しようとする利用者がいる時は、本人の背景を理解し、施錠する事なく見守りを強化するなどの対応をしていく意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルの設置があり、内部研修を実施する他、全職員が閲覧できるようにしている。虐待のガイドラインについては、管理者より随時教育を行っており、看過することがないよう指導している。		

グループホーム 健寿館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際にこれらの制度を利用されている入居者の方を例にとり学習の機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に口頭または書面にて十分な説明を行い承諾を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などの機会により入居者や家族からの意見・要望を聴取し、サービス向上につなげられるよう努めている。	運営推進会議や来訪した機会に、家族の意向や要望を聞き取るように努めている。家族から出された意見や要望は、職員間で検討を重ねて、運営や日々のケアに反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的(概ね1か月に一回)職員全体での会議を開催し、業務改善への取り組みや提案について話し合う機会を設け、業務・運営に反映させている。	日常的な業務を職員間で分担して、利用者が過ごしやすいように工夫している。管理者は、日常的に各職員と会話を交わす事で、意見や要望、相談事を気軽に話せるような関係づくりを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が随時個別に面接を行い、要望や職務に対しての意向の聴取、悩みや相談を受ける機会を設け、職員がモチベーションを維持できるよう努めている。環境面のからも整備を行い「働きやすい職場環境」を作りあげていけるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員ごとに能力を査定し、その職員のスキルや能力に応じた指導を行っている。研修の参加は啓発しているが、積極的な参加には繋がっていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所所在区における、同区の管理者のネットワークを活用した会合や合同研修により学びの機会を得ている。また、現在までの実績はないが、同法人内での事業所の相互訪問機会などは今後予定している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が早く環境になじむめるよう寄り添い、その都度不安や要望などを聴取を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が来館したときには、家族の要望などを引き出すことができるようにコミュニケーションを心掛けている。そのほか、必要な連絡事項などはこまめに連絡することで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の段階で、十分に情報の聴取を行い、ご本人・ご家族のニーズを鑑みた上、他サービス利用も含めた最適な提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共同生活」という視点から、入居者の方にもできることは手伝っていただきながら、良い意味での対等の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ときにはご家族の力をお借りし、「家族でしかない関わり」また、「介護のプロとしてのサービスの提供」を組み合わせ、家族・事業所・本人と3つのバランスを保ちながら連携をとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居してからも、できるだけ以前の人間関係を維持できるよう、手紙のやりとりや外出の支援を行っている。来客の方にも気兼ねなくお越しいただけるようオープンな雰囲気づくりに配慮している。	家族の協力の下、利用者に応じて教会を訪れたり、馴染みの場所を訪問するなどの支援が行われている。職員は、知人への手紙を投函したり、電話の取次ぎなども積極的に支援している。希望に応じて、数人で買い物へ出かける事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれのパーソナリティーに合わせたコミュニケーションの場を提供して孤立しないよう配慮している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了が関係の終了とならないよう、必要に応じて次のサービスへ繋げていく為の計らいや情報の提供など退居後のフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や課題分析によってニーズを把握してその実現に努めている。またうまく思いや希望を表出できないときは表情や仕草から思いを汲み取れるよう努めている。	利用開始時に、家族や関係者から生活歴などを聞き取り、意向や思いの把握に努めている。利用者の表情や行動などから本人の意向や思いを汲み取り、職員間で情報を共有して思いに沿った対応ができるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談受付の段階での情報の聴取はもちろん、入居後に知り得た生活習慣などでもできるだけ詳細に把握し、本人らしい生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の詳細な記録の積み重ねにより本人の生活習慣や好みの把握ができるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成にあたっては本人、担当職員との意見交換や聞き取りを行っている。家族からの意見聴取についてはご来館の際や運営推進会議の中で行っている。	新規利用者の介護計画は、1カ月で見直しを行っている。定期的な見直しは、家族の来訪時に意向を聴き取り、計画作成担当者と担当職員が中心になって3ヶ月毎にモニタリングを行い、各職員の意見を反映させて、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	分析や見直しの為に個人別の介護記録を書式化し、だれがみてもわかりやすいように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない場合の病院受診の介助など、状況に応じて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や町内会などのコミュニティ、隣接するグループホームとの協力体制をとり、エンパワメントの視点で生活を営んでいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携先の病院から、かかりつけ医が定期的に訪問診療に来ている。馴染みの関係で入居者も安心して医療のサポートを受けられており、ご家族にも経過を報告している。	家族や利用者の意向で、利用開始前からのかかりつけ医の受診を、家族支援の下で継続している利用者もいる。皮膚科、整形外科などの受診は、職員が同行している。医療関係の受診記録は、個人別情報シートに記録して、経過が確認できるように工夫している。	

グループホーム 健寿館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受けており、入居者の体調や健康管理について相談、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、その経過や治療内容など、病院の担当職員と密に連絡を取り、できるだけ早期の退院に向けた情報交換や相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者重度化した場合の医療体制指針が定められており、家族・事業所・協力医療機関と連携し、その後の方針を決めていく体制がある。	利用開始時に「入居者様の病状が重度化した場合の医療連携体制指針」を作成して説明を行い、利用者の健康状態の変化に応じて、その都度対応や方針について家族と話し合いを行う事を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者より、急変時や事故発生時の対応について事例別に指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には地域の消防団や隣接するグループホームとの連携体制が敷かれているほか、管理者が防火管理者の資格を取得し、日頃から防災・災害対策に対して意識を高める指導を行っている。非常用として飲料水・クラッカーなどの備えがある。	消防署の協力の下、11月に職員のみで夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。更に、年度内に消火器訓練などを予定している。前回の課題である災害備蓄品の整備は進められているが、職員の救急救命訓練は今後も課題となっている。	避難訓練に、地域住民や利用者が少しずつ参加できるような方法を話し合い、地域住民の役割分担などを明確にして地域との協力体制が築けるように期待したい。全職員の救急救命訓練の受講を、今後とも計画的に進めていくように期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、時には親しみやすい友人のような関係を築けるよう心掛けている。	利用者を敬う姿勢で接しているが、慣れ過ぎた言葉遣いで気になる時は管理者が個別に指導している。名前は苗字に「さん」付けで呼んでいる。個人情報などの書類は事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の心に寄り添いいつでもその人らしい生活や自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の家にいるのと同じように過ごしていただけるよう、個々の生活リズムを尊重している。決められたスケジュールのようなものは極力排除し、「やりたいこと」「できること」を包括的に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや生活歴を鑑みて、身だしなみを整えている。外出時には化粧をしたりいつもと違うおしゃれを楽しんでいただいている。訪問理容のサービスを導入しており、希望により2カ月に一度利用していただいている。		

グループホーム 健寿館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に参加できる方には盛り付けや後片付けなどに参加していただいている。勤務体制上全員が食事に同席できないが、最低でも一人は同じ食卓で同じ物を食べるようにしている。	食材委託業者からの献立を見て、利用者の状態や好き嫌いを把握して調理方法を変えることもある。季節の料理や出前を取るなどして食事を楽しめるように工夫している。利用者の出来る力に応じて、調理に参加したり、簡単な作業を職員と一緒にやっている。職員も同じ食事を一緒に食べることについて話し合いを重ね、1～2名が食卓を共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は毎日摂取状況を記録している。その日の体調や、入居者個人の能力・状況に応じて内容や提供の仕方を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁などの課題がある方は、まず排泄のパターンをチェックし、その人の尊厳を損なわない援助ができるよう努めている。基本的には「いつまでもトイレで排泄ができること」を目的に支援を行っている。	全員の排泄間隔と支援方法を把握し、個別の対応を行っている。日中はトイレでの排泄を目的にしているが、声掛けや誘導で改善した事例もある。失敗した時なども周囲に分からないように羞恥心に配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操の実施、必要な水分量の確保、食物繊維の多い食品を取り入れるなど配慮をしている。お通じが滞った場合には、腹部をマッサージするなど対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の家族や友人の来訪などを鑑みて入浴の曜日を決定している。入居者のその日の希望によっても臨機応変に対応している。	訪問診療がある月曜日以外は、いつでも入れるように準備し、午後から入浴介助を行っている。自立面のある利用者は午前中に入ることもある。週2回の入浴を基本とし、信頼関係を築きながら入浴を嫌がる利用者も週に1回は入れるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝起きて夜は眠るというリズムを維持する為、活動と休息のバランスを配慮した生活を送れるよう個別の支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明とともに職員によって一元的管理されており、各職員は内容について把握するよう心掛けている。服用前には間違いがないように二重に確認し原則「飲み込む」まで見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性を理解し、それぞれの方に社会的役割や生きがいをもちながら生活が送れるよう支援している。		

グループホーム 健寿館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	勤務体制や車両の都合もあり頻度は限られるが、希望があれば買い物などの外出支援を行っている。そのほか季節の行事としてお花見や夏祭り、紅葉見学、ホワイティイルミネーションの見学などを行っている。	普段は近くの遊歩道や公園内を散歩したり、ベランダや玄関前でお茶を飲んで外気浴を楽しんでいる。個人の希望に沿って数人で買い物に出かけている。年間の外出行事を計画し、遠出の見学や買い物ツアーを行い、冬期間も車中見学や買い物などで外出機会を増やす工夫を重ねている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、原則、入居者の方の金銭所持はお断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方には電話の使用、手紙の投函を援助している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に採光や音、室温には配慮し落ち着いて過ごしていただける環境づくりに努めている。時期によっては植物を飾ったり、季節感の演出も配慮している。	共用空間は大きな窓から採光が入り、明るく清潔感がある。居間の広いスペースを食卓テーブルと団欒できるソファーとに分けて、ゆったり過ごせるように工夫している。クリスマスの時期に合わせてツリーやリースなどの装飾で季節感を取り入れ、壁には行事の写真や暮らしの写真を貼り、来訪者に普段の生活が分かるように配慮している。加湿器を設置して温湿度も適切に管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でのオープンキッチンのカウンターなど、こじんまりとしたスペースがある。休息や職員や入居者同士でのコミュニケーションの場として活用されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器などは思い入れのあるものや、使い慣れた物をご用意していただいている。	居室には安全な移動が出来るように、滑らない床材を使用している。馴染みの家具類、好みの置物、ラジオ、また趣味の物も持ち込まれ、家族の写真や作品が飾っており、心地よく過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの持てる力を生かし、本当に必要な部分だけお手伝いするように心掛けている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 健寿館

作成日：平成 24年 1月 12日

市町村受理日：平成 24年 1月 17日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議を生かした取り組み。現在2カ月ごとに開催しているが、報告中心の内容である。町内会の役員や地域住民代表の定期的な参加が課題。	運営推進会議に地域住民や町内会役員の方にも参加してもらう。	こちらからも町内会の催し物や公園の草むしりなどの行事に積極的に参加し、ホームを身近に感じていただけるよう交流を深めていきたい。	6カ月
2	35	消防署の協力の下、職員のみでの参加で夜間を想定した訓練を行っている。備品の整備は進められているが、職員の救急救命訓練の受講など、より実践的な取り組みが今後の課題。	入居者や地域住民の方が参加できる避難訓練を行う。管理者をはじめ、より多くの職員が救急救命訓練に努める。	避難訓練の際には地域の住民の方にも声掛けして参加していただけるよう働きかけを行う。管理者を筆頭に救急救命訓練の受講をする。	12カ月
3	13	介護経験の浅い介護職員が多い為、技術が未熟である。	介護力の向上を目指す。	事業内で勉強会を開催したり、積極的に外部の研修などに参加してスキルアップを図る。	12カ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。